

Title: I'm here!



清水 香奈江
長い長い学生生活最後の一大イベントです。色々な世界を見てみたいです。

● 最近のエントリー

- ☞ 月の～砂漠をお～
(2011.06.24)
- ☞ 汽車を待つ君の横で僕は時計を気にしてる。そんな季節だったらしいの
に。。。デリー
(2011.06.22)
- ☞ Buji desu
(2011.06.14)
- ☞ THANK YOU FOR THE PHOTOGRAPHS
(2011.06.07)

● アーカイブ

- ☞ 2012年03月
- ☞ 2011年11月
- ☞ 2011年10月
- ☞ 2011年09月
- ☞ 2011年08月
- ☞ 2011年07月
- ☞ 2011年06月
- ☞ 2011年05月
- ☞ 2011年04月
- ☞ 2011年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

I'm here! > 2011年06月 アーカイブ

11.06.24

月の～砂漠をお～

[Tweet](#)

[Check](#)

タール砂漠のほぼ真ん中に位置するという極端都市ジャイサルメル。夢のひとつだった砂漠に、ついに言ってきました！！

と、その前に、スカーフを買いに町に。廻り道しが強い砂漠では日よけは必須アイテムです。



いい感じの布を発見。でも首にまくには少し短い感じ。そこで、同じような柄のものを2つ買い、その場で縫い合わせてもらいました。





似合ってますねー。
写真には撮り忘れましたが、この布やさんがあるおうちは、ジャイサルメールの古からの様式の家らしいです。
白壁で、所々にブルーのさし色が入ってるのがとってもかわいらしかったです。
なにより、コンパクトにまとまったキッチンがとっても素敵でした。
壁には銀色の食器たちが可愛く並べられていて、お料理が楽しくなりそうな空間でした。
おばあちゃんが、「ごはんを食べてく？」と言ってくれたけど、時間もないのでそそくさと退散。
うーん、残念。

一旦ホテルに戻り、昼食。
ちなみに私が買ったスカーフはこれ。



けが人ではないです。

町からジープで1時間ほどでクーリという村に着きました。
飲み物で一息ついて、さっそくキャメルツアーに。





このらくた、立ち上がる時も座る時もやや前傾姿勢で立ち上がるため、振り落とされそうで怖いんです。
何歳か異り降りしても、やっぱり立ち上がりと座る時は身構えてしまいました。



らくた使いのおじさん。





一面見通す限りの砂！！というのを想像していたけど、しばらくは荒野のようなところを走ります。
どれだけ走ったでしょうか。お尻が痛い。途中でやっど休憩。
おじさんたちが察知しました。
なので、私たちもごろん。



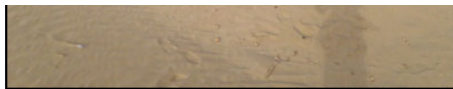
察てるおじさんと目が会いました。うわわ。

気を取り直して。



森上さんはひとりでらくだに乗ってます。かっこいいですね。





しばらく走り、一面が砂の場所に着き、サンセットを待ちます。
あれ・・・夕日の写真が・・・すみません)))))

夜はクーリー村のゲストハウスに戻り、外に出してもらったベッドで就寝。
風がとてこちよく、ぐっすり眠れました。

今回のツアーは1泊2日でしたが、もちろんアレンジによってもっと長く行けるよう
です。
次の日に町であった観光客の人と一時間くらい話をしていた(というか一方的に聞
いていた?)ときに、
1ヶ月のツアーもあると教えてくれました。そのツアーはらくだに乗っているな村を
まわるそうです。
外でご飯を作ったり、村の人と交流したり。
おそらく今回のツアーで行った砂漠はほんの入り口でしかなかったので少し物足りない感
じだったけど、
きっと1ヶ月もいろいろとまわれば砂漠をもっと知ることができるでしょう。

ジャイサルメル。
今後はぜひ、涼しい季節に訪れたいです。

カテゴリ:

post by 清水 希聖江 | 日時: 2011.06.24 | [バナーリンク](#) | [コメント\(5\)](#) | [トラックバック\(9\)](#)

[I'm here!](#) > 2011年06月アーカイブ

11.06.22

車を待つ君の横で僕は時計を気にしてる。そんな季節だ
ったらしいのに・・・、デリー。

[Tweet](#)

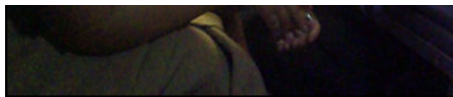
[Check](#)

6月14日。
オールドデリー駅構内は多くの人で溢れ返っていて、尋常ではない暑さだった。
体中から水のように汗が噴き出し、穿いていたスボンまで汗でぐっしょり。
ジャイサルメル行きの列車が停まるホームに着き、列車の時間を待つ。
17時半前、列車がそろりそろりとホームに入ってくる。
駅員さんが慌ただしく車両にリストを貼って行く。
どうやら座席表らしい。
私たちの車両はA3コーチ。
車両自体にその表記がなくて、なかなか見つからない。
ホームは列車に乗る人が行き交っていて、バックバックとカメラバックを持って移動する
のにはしんどい。
汗だくの3人は慣れない暑さと人の多さにぐったりしている。
終始無言。乗る車両が見つからない焦りが募る。

と、ここまでが列車に乗るまでのお話です！
いやぁーほんとに暑くて暑くて。
「ちょっと清水ちゃんお尻なんが濡れてるよ!!」と驚かれるくらい全身汗だくで、
車両も見つからないからホームをうろうろして、
駅員さんも慌ただしくいなくなるからなかなか見つからなくて。
何人も人に聞くんだけれど、「とにかくあっちの隣の車両だ!」とだけ言われて、
英語が聞き取れないのが説明が不十分なのもわからないまま
あわあわあわ。
最終的につかまった駅員さんには
「お願いだから、私たちをその車両まで連れて行ってください!!!」とお願いし・・・
それでも連れて行ってはくれない。「ここから9両先の車両だ」というそれまでで一番わか
りやすい説明をもらったもの。9両目は違うクラスの車両で・・・
もう、どうやって自分たちの車両につけたかはよく覚えてないくらい、3人もぐったり
しておりました。

さてさて、それでやっと乗れた17時半前ジャイサルメル行きの列車。
私たちの車両は4人1部屋のコンパートメント。
WL入りだったため、3人1人にはなれず・・・。
相席はインド人のおばさんたちでした。





列車の中では思い思いに過ごします。
目の前が他人だろうが、足だってかけちゃいます！
読書にふけるおばさん。



森上さんは、乗車前に買った冷めきったマックのマハラジャバーガーとポテトを食べます。
マハラジャバーガーはやはりカレー味のようで、
カレーが苦手な森上さんのお口には合わなかったようです。
ポテトはへなへなだったけど、きっとアツアツならもっと美味しかったはず！！
やっぱりなんでもできたてが美味しいですね。



その後、車内販売できたチャイを飲んだりしながら小一時間。
19時には早々に寢床にもぐり、ひたすら寝続けました。

翌14時過ぎ、予定より約2時間ほど遅れてジャaisalメール駅に到着。



デリーで泊まっていたホテルのツアーデスクでブッキングをした際に、
「迎えには、あなたたちの車両を伝えるから、電車を降りたところで待っていてね！名前
を書いた紙を持ってる人がいるから！」
と言われていたものの、もちろんそんな人はいない。
仕方なく駅から出ると、そこはホテルやリクシャーの勧誘の嵐。
あわわわわわ。
「ホテルは？ホテルは？」という勧誘には、とりあえず「もう予約してるから」と断る。
「リクシャーは？リクシャーは？」という勧誘には「迎えが来るから」と断る。
すると、「毎日沢山の観光客が来るんだから、迎えなんてこないよ。それは絶対だ。」と
言われる。
なんてこと・・・
何のための事前ブッキングですかぁー！！
まあでも、列車が遅れるのは予想されたことだし、善く時間もあやふやなら迎えに来る方
も大変ですよ・・・
でも遅れるのが日常茶飯事なら、迎えはどうやって来てるんだろう？電話で呼ぶ？

なんとなく、予約してるのにお金を払ってリキジャーを頼むのもしかたし、かといって携帯でこないよ！！と電話したらきつと国際電話の方が高くつくし・・・そんなこんなで頭の中がぐるぐるしてる間にも、ドライバーたちの勧誘はやまず、完全に囲まれました。

その中から自然にマネージャー的な存在の人が現れ、「無料ピックアップがあるならリキジャーに乗る必要はない。とにかく15分待ったら。」と私たちに指示して来た。

駅の前で突っ立ってても疲れるので待合室に入ると、なぜかそのマネージャー的な人も隣に座る。

待ってる間もちろん、ドライバーたちは「うちのリキジャーに」と勧誘を続ける。時々マネージャーが口をはさむ。「そいつは嘘つきだ」「そいつは信用できるぞ」「でもフリーならお金を払う必要はない」などなど。

ドライバーたちも口々に「マザーテレサに誓って・・・云々」「こいつの頭はおかしいぞ」「迎えなんがこないさ！」・・・

カオス！！

小林さんと森上さんは列車酔いでぐったり。



駅に毒いてからかれこれ30分くらい経っても迎えは来ず、らちがあかないので車をピックアップすることに。

とにかく、一旦状況をまとめよう。

目の前にいたドライバーに値段を聞く。

とにかく、荷物があるのでリキジャーは無理だろうと判断。

1番大きなジープを持っているドライバーに決定。値段は100Rs.

と、その前に。

マネージャーに質問。

「ところで・・・あなたは誰??」

「ドライバーさ」

.....

とにかくにも。

私たちはジープに乗り込み、ホテルへと向かいました。



「ブッキングしていたなら、ホテルの人にその料金をもらおうといいよ！」

となるほどなアドバイス。いい人だったんですね！！

あれ、でもそしたらあなたがホテルの人に請求してくれないかなあ・・・??

とも言えず。

(いや、言ったような気もするけど通じなかったのか・・・?)

ドライバーは「何れ来たら善哉！アイケ！」と地獄楽を唱へて去っていきま

インドは、何かのたしなも知って、何かしらが好きと気が、あつてました。

出発から約1日。

やっと着いたジャイサルメールは40度を越す暑さで、1年で一番暑い季節、おそらく到着した日が滞在した中で一番暑かったのではないかとくらいで部屋のクーラーも効かず、初めて水シャワーを期待してひねった蛇口からは生暖かい水（もはやお湯）しか出ず、ここに来て改めて、インドの暑さを痛感したのであります。

前日の昼以来、まともな食事をしてなくて腹ぺこだった私は、ぐったりして食欲のない2人を差し置いてルームサービスでナポリタンを注文。

期待はしていなかったけど、意外や意外。

具はたまねぎだけだったけど、喫茶店のナポリタンのような懐かしい味。

しかしどこもなくスパイシー。

その後滞在中に3回ほど食べましたが、2回目の注文以降たまねぎの姿は消え、代わりにニンニクが投入されていました。

完全にニンニク風味。でも味はおいしい。

これはナポリタンか？そんなのはきつと愚問でしょう。

他のメニューに、チーストマトマカロニというものもあってそれも2回ほど食べました。

ベースはナポリタンと同じ。ニンニクが効いてて美味しかったです。

デリーのカレーは本当に美味しくて、これなら毎食カレーでも大丈夫だ！と思ったのですが、

ジャイサルメールのカレーは少レクセがあつてどうしても好きになれませんでした。

独特なスパイスはなかなか口慣れせんね。

しかしながらチャイは安定して美味しかったです。

やっぱりチャイ。みんなのティータイムを豊かにしてくれるオアシスだね。

あんた、えらいよ！

いよいよ次の日記では砂漠に行きます。（たぶん）

カテゴリ:

post by 清水 希菜江 | 日時: 2011.06.22 | [ホームリンク](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

I'm here! > 2011年06月アーカイブ

11.06.14

Buji desu

[Tweet](#)

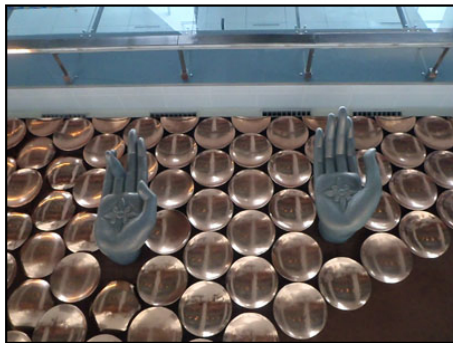
[Check](#)

インドに行ったら癒せるから！とみんな言っていたけど、全く癒せる気がしない清水です、こんばんは！

本当に、毎食カレーです。まだ飽きてません。カレーおいしい、チャイもおいしい。

昨日、チェンナイからデリーに到着しました。

デリーの空港は思ったよりきれいでした。トイレがきれいなことに感動！



インドは森さん、小村さんと行動します。

これから数週間どうぞよろしく！



宿について早速ジャイサルメール行きのチケットを手配。

ホテルのツアーデスクの人が代行してくれるとのことでお願いました。

インドの鉄道にはウェイティングリスト（WL）というシステムがあり、

キャンセル待ちが出たら繰り上がってチケットが取れるようです。

行きの列車はウェイティングリスト入り。

ちょうど3人で、1、2、3番。

「ちゃんと取ります」という言葉を信じてWLに・・・。

ついでに、次の日のデリー市内ツアーもお願いしました。

用事を済ませてからホテルの前のサロンへ。

なんと、このインドで森さんが髪を切るとのこと。

なんとというチャレンジ。



仕上がりは・・・

男前！（ただし、90年代の）

最後はサロンのお兄さんにボロシャツの襟までたてられて、本当に90年代後半を彷彿とさせていました。

小林さんは毛先を揃え、



私はフェイシャルを・・・。
ところが髪を濡らされ・・・ちよちよちよ、！！私は髪を切らないよ！！
危うく切られるところでした。



元々は私は見学だけのつもりでしたが、前にやってたお兄さんのフェイシャルマッサージがすごく気持ち良さそうで・・・。
インド人の男の人はおしゃれなんですね。
本当に酔がさっぱりしました。
インドフェイシャル、おすすです。

最後はピンクのリップまで塗られて完成。
小林さんと森上さんには

「おばあちゃんみたい」と言われました。

涙。

11.06.07

THANK YOU FOR THE PHOTOGRAPHS

[Tweet](#)

[Check](#)

昨日、シンガポールから戻ってきました、こんばんは！清水です。

今回このブログでも使用しているOLYMPUS TOUGH TG-310。
私たちが3月に旅を初めてからこれまでに撮影してきた写真を展示した写真展が
[シンガポールナショナルジオグラフィックストア](#)で開催されています。
詳しい写真展の様子は[引率の徳田さん](#)が丁寧にレポートしてくださっているのでそちらをご覧ください！
シンガポールでの写真展は海外フィールドワークの恒例行事のようになっていますが、
毎年このような写真展を開催することができるのも、オリンパスイメージングシンガポール様をはじめ
東京のオリンパス本社様、オリンパスイメージング様、株式会社PICTORICO様、
そして東京でバックアップをしてくださっている敬務課の方々など、
様々な人たちの協力があったることだと思います。
本当に、ありがとうございます。

会場となったナショナルジオグラフィックストアがあるVIVO CITYというショッピングモールは
子供連れのお客さんも多く、小さな子供たちが私たちの写真を楽しそうに見て行く姿が印象的でした。
写真展が終ったあと、オリンパスイメージングシンガポールの社長であるジミーさんがこうおっしゃっていました。

「ぜひこれからも写真を撮り続けてください。私たちは写真を見て初めて知る世界もあるのですから。」

写真でどのようなことができるのか。
この旅ではいやでもそんなことを考えざるをえなかった時に、
ジミーさんのこの言葉に強く背中を押された気がしました。
後半も、がんばれそうです。

ところで。
今回の写真展ではスライドショーも担当させてもらいました。
自分の写真を学校関係者以外にちゃんと見てもらうのは初めてで、どきどきしました。
スライドショーはこの写真から始まります。



タイトルは「微熱」。
スライドショーが終わったあとに、このタイトルについても質問されました。
ぼんやりと見える世界がちょうど微熱で顔がぼんやりした状態に似てるかなと思い、このタイトルをつけました。
日本で同じテーマで撮っていた時のタイトルは「めまい」で、今回のスクーリングで「微熱」に変更しました。
私の世界に対する見方で少しクリアになった部分があったからです。
でも、世界に対する見方はこれからまた変化するかもしれない、だからタイトルも変わるかもしれません。
そんなことも説明しました。
スピーチは英語でしたが、通訳はオリンパスイメージングシンガポールのアントニオさんが担当してくれました。
「あなたたちは日本語で言ってくれば大丈夫です。言いたいことを言ってください。私が通訳しますので、私を信じて。」

普段の私なら質問をされたらおろおろしてしまうのに、力強いアントニオさんの言葉に少し緊張もとけ、
いつもよりリラックスして受け答えができたように思います。
今回スライドショーをしてみて、自分の写真に対する責任というものを感じました。
自分の作品をもっとよく理解して、相手に伝えることが大事だと。
このことはスクーリング後にも本当に痛感したけれど、改めて知ることができていい経験になりました。

This is very important experience for me.
Thank you for giving such a opportunity.
I will continue to take pictures.
Please be looking forward to the photo slide show in October!

このまま真面目な感じで終わるかとも思ったのですが
最後におまけの動画です。

＼ THANK YOU FOR YOUR COMING!!!! ＼





次はインドで会いましょう！

post by 清水 香葉江 | 日時: 2011.06.07 | [ホームリンク](#) | [コメント \(2\)](#) | [トラックバック \(9\)](#)

カテゴリ: